



目 次

1:25,000 活断層図 石狩低地東縁断層帯とその周辺「鵡川」解説書

1. 厚真町三ヶ月沼付近の断層・	2
2. 苫小牧市柏原から厚真町共和に至る活褶曲・	2
3. 厚真町宇隆からむかわ町春日一区に至る断層・	3
4. むかわ町汐見付近の断層・	4
引用文献・	4
使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等・	4
付図（断層索引図）	6



令和元年調査図郭 平成 30 年以前の調査図郭

1:25,000 活断層図「鵡川」作成位置図

1:25,000 活断層図 石狩低地東縁断層帯とその周辺「鷗川」解説書

石狩低地東縁断層帯は、北海道西部の石狩平野とその東側に分布する岩見沢丘陵、栗沢丘陵、馬追丘陵との境界付近に位置する活断層帯であり、その分布形態から石狩低地東縁断層帯主部と石狩低地東縁断層帯南部に区分される。

石狩低地東縁断層帯主部は、北海道美唄市から岩見沢市、夕張郡栗山町、長沼町、由仁町、千歳市を経て、勇払郡安平町に至る断層帯である。長さは約66kmと推定され、東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層である。

石狩低地東縁断層帯南部は、千歳市から勇払郡安平町、苫小牧市、厚真町を経て、沙流郡日高町沖合の海域に至る断層帯である。長さは54km 以上（活褶曲軸の北端と南端を直線で結んで計測）と推定され、東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2010）。

本図には、石狩低地東縁断層帯を構成する厚真町三ヶ月沼付近の活断層、苫小牧市柏原から厚真町共和に至る活褶曲、厚真町宇隆からむかわ町春日一区に至る断層及びむかわ町汐見付近の断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. 厚真町三ヶ月沼付近の断層

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約2 km
- ・断層種別 : 活断層（一部活撓曲を含む）

（※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である）

（1）概要

勇払郡厚真町の三ヶ月沼付近（図郭北端）に位置し、一部に北側隆起（南側下がり）の活撓曲を含む、北西－南東方向に延びる長さ約2 km の活断層である。

（2）判読根拠

厚真町豊川に位置する三ヶ月沼北側では、南東に流下した支笏火砕流の堆積面の一部に南西方向の増傾斜帯が認められ、これを活撓曲であると判断した。この撓曲地形は、北西－南東方向に約2 km 以上にわたって連続する。安平川を挟んで北西側には、1:25,000 都市圏活断層図「千歳」（平川ほか、2010）図葉の安平町早来富岡付近に類似の撓曲地形が存在し、その連続性から同一の活構造と判断した。一方、厚真川を挟んで南東側には、三ヶ月沼北側の撓曲地形に対応する連続的な変位地形は確認されない。

2. 苫小牧市柏原から厚真町共和に至る活褶曲

- ・走向 : 北西－南東

- ・長さ : 約 6 km
 - ・断層種別 : 活褶曲 (活背斜)
- (※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

苫小牧市柏原付近から勇払郡厚真町共和付近まで、北西－南東方向に断続的に延びる長さ約 6 km の 4 条の活褶曲 (活背斜) である。

(2) 判読根拠

苫小牧市柏原から厚真町共和に至る活褶曲の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

2a: 柏原台地 (苫東中央 IC の北西) では、支笏火砕流の堆積面に最大で比高 3 m 程度の緩やかな背斜状の地形が西北西－東南東方向に連続する。

2b: 静川^{しずかわ}台地の南西部 (北海道共同石油備蓄基地付近) においても、北西－南東方向の緩やかな背斜状の地形が存在し、北北東方向の傾動も見られる。

これらの背斜状の地形は、地下構造調査の結果 (岡田ほか, 2013a; 岡田ほか, 2013b) から、厚真川を挟んでさらに南東側へは連続しないと考えられる。

3. 厚真町宇隆^{うりゅう}からむかわ町春日^{かすが}一区に至る断層

- ・走向 : 北北西－南南東
 - ・長さ : 約 14 km
 - ・断層種別 : 推定活断層
- (※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

勇払郡厚真町宇隆から同郡むかわ町春日一区付近まで、北北西－南南東方向に延びる長さ約 14 km の推定活断層である。

(2) 判読根拠

厚真町宇隆からむかわ町春日一区に至る断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

3a: 厚真町宇隆から軽舞川^{かるまいがわ}右岸にかけては、丘陵地の南西向き斜面の尾根上に鞍部や傾斜の変換点が認められ、かつ北北西－南南東もしくは北西－南東方向に連続する。

3b: 軽舞川左岸から入鹿別川^{いりしかべつがわ}右岸にかけても、丘陵地の南西向き斜面の尾根上に鞍部や傾斜の変換点が北北西－南南東方向に連続し、一部では南西側の標高が北東側に対して高い (南西傾斜の逆断層が示唆される)。

3c: 入鹿別川左岸からむかわ町春日一区 (鵠川右岸) にかけても、鞍部や尾根の傾斜の変換点が北北西－南南東もしくは北西－南東方向に連続し、一部ではその南西側の標高が北東側に対して高い (南西傾斜の逆断層が示唆される)。

これらの断層が横断する沖積低地には、少なくとも顕著な変位は認められない。また、数

十萬年前以降に離水した河成段丘面等の変位基準となる地形面が分布せず、第四紀後期の活動性を判断できないことから、推定活断層とした。

4. むかわ町^{しおみ}汐見付近の断層

- ・走向 : 西北西－東南東
- ・長さ : 約3 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

勇払郡むかわ町汐見付近から図郭東端まで、西北西－東南東方向に延びる長さ約3 kmの推定活断層である。

(2) 判読根拠

同一の海成段丘面を開析する東西に流れる^{ちんがわ}珍川をはさんで、南側の段丘面の標高が北側の段丘面に対して高くなっていることから、南側隆起の断層の存在が推定される。断層崖の地形が認定されていないことから断層の正確な位置は不明である。また、断層認定の根拠が、海成段丘面の一部の高度差のみであり、侵食による可能性も残されることから、推定活断層とした。

(岩手大学准教授 岡田 真介)

引用文献

平川一臣・石山達也・池田安隆・東郷正美・宮内崇裕・八木浩司 (2010) : 1:25,000 都市圏活断層図「千歳」, 国土地理院。

地震調査研究推進本部地震調査委員会 (2010) : 石狩低地東縁断層帯の長期評価 (一部改訂) . 34p. https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/06_ishikari-teichi_2.pdf (2019年12月18日閲覧)

岡田真介・山口和雄・横倉隆伸 (2013a) : 石狩低地東縁断層帯における反射法地震探査－厚真測線およびむかわ測線－. 平成24年度沿岸域の地質・活断層調査研究報告, 地質調査総合センター速報, 62, 63-72.

岡田真介・住田達哉・山口和雄・横倉隆伸 (2013b) : 石狩低地東縁断層帯南部における重力探査. 平成24年度沿岸域の地質・活断層調査研究報告, 地質調査総合センター速報, 62, 73-83.

使用空中写真, 使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関 (種別)	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍 (モノクロ)	1/10,000	M149, M189, M291, R246, R249, R266(No.2)

国土地理院（カラー）	1/10,000	CHO-75-9
国土地理院（モノクロ）	1/10,000	HO-61-2
国土地理院（モノクロ）	1/20,000	HO-63-4X, HO-66-5X

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院が管理する航空レーザ測量データから 2 mDEM を作成して使用

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会の開催

第 1 回委員会 令和元年 8 月 29 日（木） 新横町ビル 7F ビジョンセンター東京駅前
地域部会 令和元年 11 月 1 日（金） 越前屋ビル 4F イオンコンパス東京
八重洲会議室

第 2 回委員会 令和元年 12 月 26 日（木） 新横町ビル 7F ビジョンセンター東京駅前

b. 石狩低地東縁断層帯とその周辺「鵠川」の作成委員（令和元年度）

図 名	氏 名	所 属
鵠川	○ 岡田 真介	東北大学助教（現在：岩手大学准教授）
	石山 達也	東京大学地震研究所准教授
	宮内 崇裕	千葉大学教授
	山中 崇希	国土地理院応用地理部地理情報処理課技官

○印は、全体のとりまとめを担当した委員、その他の委員は五十音順

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305-0811 茨城県つくば市北郷 1 番
電話：029 (864) 1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

岡田真介・石山達也・宮内崇裕・山中崇希（2020）：1:25,000活断層図「鵠川」，国土地理院。

b. 解説書を引用する場合

岡田真介（2020）：1:25,000 活断層図 石狩低地東縁断層帯とその周辺「鵠川」解説書，国土地理院，6p.

【 付図（断層索引図）】

